

今年4月に本校3年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、結果がまとまりました。本調査は、国語、数学、理科の3教科のテストと同時に、家庭生活、学校生活に関する調査も実施されています。生活習慣や学習の様子など、本校の3年生の状況をお伝えします。

総合結果（国語・数学・理科）

全体の平均正答率は国語、数学、理科全てにおいて全国平均を上回っていました。どの教科においても、思考・判断・表現の問題で平均正答率が全国平均を上回るものが散見されました。各教科についての質問より、教科の学習が好き、授業が楽しいと答えた生徒が全国平均を上回っていることが分かりました。また、今回の国語・数学の問題では記述式で解答するものがありました。それらの問題について、「最後まで解答を書こうと努力した」と答えた生徒が国語は14.9ポイント、数学は9.7ポイント全国平均を上回っていました。各教科の学習に対し、苦手意識を持っている生徒は一定数いますが、全体的に学習意欲が高く、授業に前向きに取り組んでいることが、今回の結果につながったと考えられます。

国語科より

(全国平均と比べて)

- 読み手の立場に立って、語句の用法、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる。 + 14.1
- 文章の構成や展開について根拠を明確にしてかんがえることができるかどうかをみる。 + 9.1
- 文脈に即して漢字を正しく使うことができるかどうかをみる。 - 3.8
- 読み手の立場に立って、表記を確かめて文章を整えることができるかどうかをみる。 - 0.3

文章の展開や構成、より相手に伝わりやすくするために表現を考えたり、工夫したりすることに関しての正答率が高い。特に全国的に正答率が30%前後になる問題の正答率が非常に高い。普段の学習に対する取り組みや、問題に粘り強く取り組む姿勢の表れである。一方で漢字を正しく使い分けたり、表記を修正したりすることに関しては課題がみられる。日常で国語に関わらず文章を書くときに漢字の間違いや、漢字を使用しない生徒も多いため、教科に関わらず正しい漢字を使う習慣をつける必要があります。

数学科より

(全国平均と比べて)

- ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができる（図形） + 18.2
- 相対度数の意味を理解しているかどうかをみる（データの活用） + 16.9
- 一次関数 $y = ax + b$ について、変化の割合を基に、 x の増加量に対する y の増加量を求めることができるかどうかをみる（関数） - 5.0

全体の正答率は全国と比べ8.7ポイント高く、ある程度の知識の定着が見られた。領域ごとの正答率に関しては、【データの活用】が全国平均+13.4ポイントで最も良い結果であり、【関数】が全国平均+1.5ポイントであり全国平均との差が最も小さく本校の苦手な領域と考えられる。今回の関数領域の問題は、一次関数から出題された。 x の増加量から y の増加量を求める問いは基礎基本レベルの問題であるにも関わらず正答率は全国の平均を5ポイント下回った。三年生の関数の学習の際に、一次関数の復習をしっかりと取り入れ、関数ごとの特徴の違いを整理できるような授業展開を心掛けたい。

理科より

(全国平均と比べて)

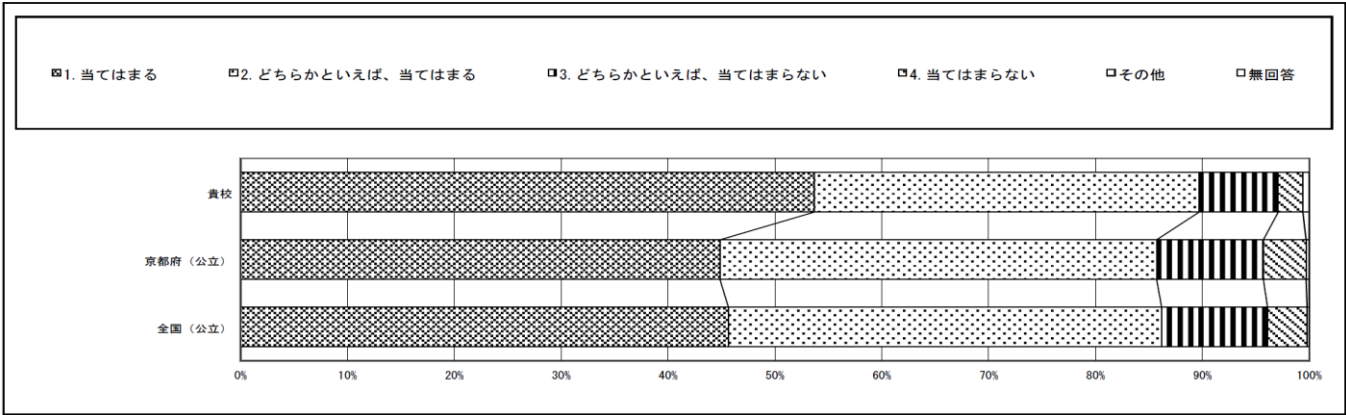
- 科学的な探究を通してまとめたものを他者が発表する学習場面において、探究から生じた新たな疑問や身近な生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかどうかをみる +13.7
- 水の中の生物を観察する場面において、呼吸を行う生物について問うことで、生命を維持する働きに関する知識が概念として身に付いているかどうかをみる +5.7
- 塩素の元素記号を問うことで、元素を記号で表すことに関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる -6.0
- 分解に関する身近な事象を問うことで、これまでに学習した理科の知識及び技能を基に、化学変化の分解の知識が概念として身に付いているかどうかをみる -9.9

正答率は、一部マイナスはありますが、どの領域も全国平均、京都府平均よりも高い数値でした。領域や問題形式の違いによる特徴は特にありませんでした。正答数の分布においても全国平均に比べ、得点層がやや高く、低得点層がその分少ない結果でした。今後も基礎基本の定着に力を入れつつ、高中低すべての得点層にとって知識の活用場面を増やしていきたいと考えています。

生徒質問紙から今年度、特徴的なグラフを示したものを紹介させていただきます。

生徒質問紙から①

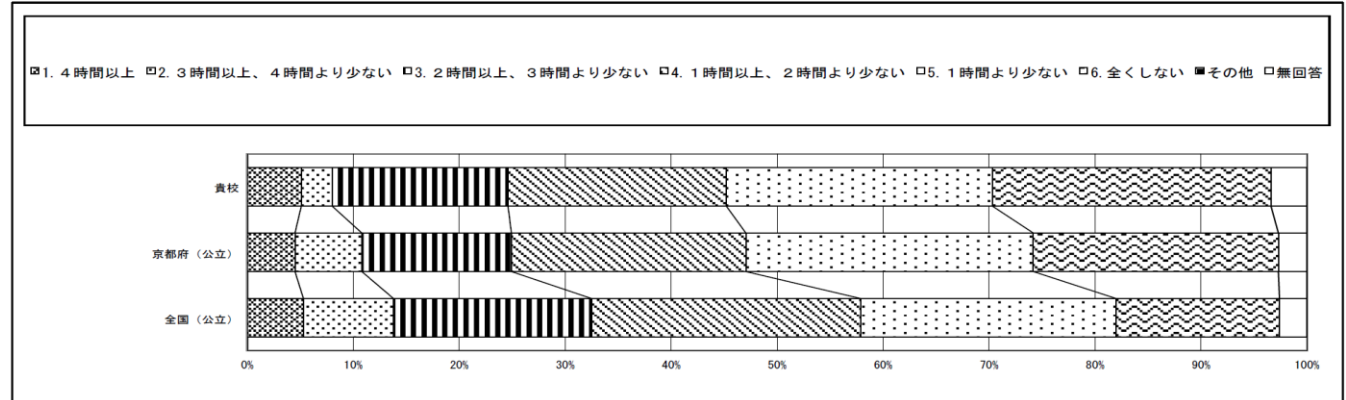
質問番号	質問事項											
(1 2)	学校に行くのは楽しいと思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1 0	その他	無回答
貴校	53. 7	36. 0	7. 4	2. 3							0. 0	0. 6
京都府（公立）	44. 9	40. 9	10. 0	4. 0							0. 0	0. 3
全国（公立）	45. 6	40. 5	9. 9	3. 7							0. 0	0. 2



「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均よりも 8.1 ポイント上回っています。「友達関係に満足していますか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均よりも 7.0 ポイント高く、より良い友人関係を構築できている生徒が多いことが見受けられ、楽しい学校生活の一因となっていると考えられます。

生徒質問紙から②

質問番号	質問事項											
(1 9)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1 0	その他	無回答
貴校	5. 1	2. 9	16. 6	20. 6	25. 1	26. 3					0. 0	3. 4
京都府（公立）	4. 5	6. 3	14. 1	22. 1	27. 1	23. 1					0. 0	2. 7
全国（公立）	5. 3	8. 5	18. 7	25. 4	24. 1	15. 4					0. 0	2. 6

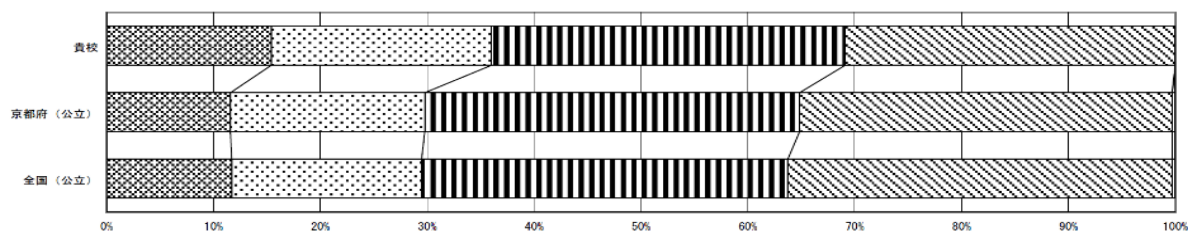


「土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」という質問に対し、「4 時間以上」と答えた生徒は 5.1%で全国平均との差異はごくわずかでした。一方で「3 時間以上、4 時間より少ない」と答えた生徒は全国平均より 5.6 ポイント、「2 時間以上、3 時間より少ない」と答えた生徒は全国平均より 2.1 ポイント、「1 時間以上、2 時間より少ない」と答えた生徒は全国平均より 4.8 ポイント低く、「全くしない」と答えた生徒は全国平均より 10.9 ポイント上回っていました。平日に関しては全国平均との大きな差異は見られませんでした。休日に関しては学習時間が少ない生徒が多いことが見受けられます。

生徒質問紙から③

質問番号	質問事項											
(26)	地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか（習い事は除く）											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	15.4	20.6	33.1	30.9							0.0	0.0
京都府（公立）	11.6	18.2	35.1	34.9							0.0	0.3
全国（公立）	11.7	17.8	34.3	36.0							0.0	0.3

□1. よくある □2. ときどきある □3. あまりない □4. 全くない □その他 □無回答

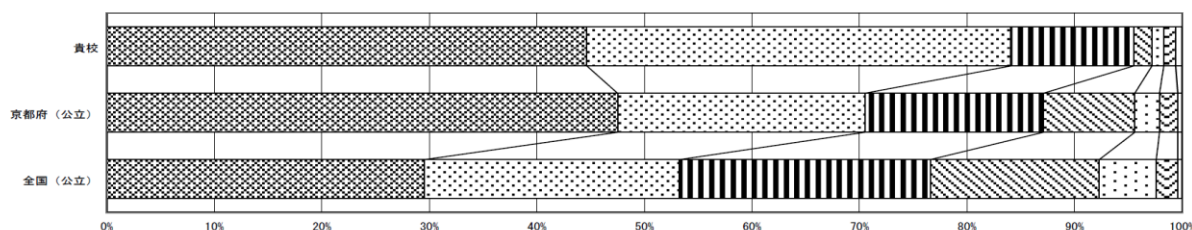


「地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」という質問に対し、「よくある」と答えた生徒は全国平均より 3.7 ポイント、「ときどきある」と答えた生徒は全国平均より 2.8 ポイント高く、地域の方との関わりが多い傾向にあることが分かりました。「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均より 5.3 ポイント高く、家庭のみならず地域の方にも大切にされていることが人の役に立ちたいという思いに繋がっているのではないかと考えられます。

生徒質問紙から④

質問番号	質問事項											
(28)	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	44.6	39.4	11.4	1.7	1.1	1.1					0.0	0.6
京都府（公立）	47.5	23.0	16.6	8.5	2.3	1.7					0.0	0.4
全国（公立）	29.5	23.7	23.3	15.7	5.3	2.0					0.0	0.4

□1. ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用） □2. ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業） □3. 週3回以上 □4. 週1回以上 □5. 月1回以上 □6. 月1回未満 ■その他 □無回答

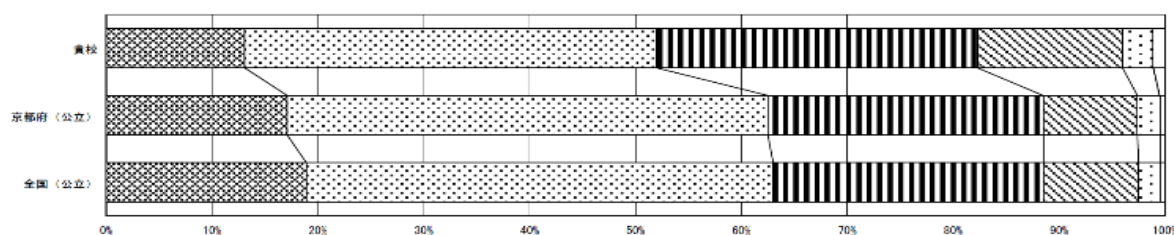


「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」という質問に対し、「ほぼ毎日（1日に複数の授業で活用）」と答えた生徒は全国平均より 15.1 ポイント、「ほぼ毎日（1日に1回くらいの授業）」と答えた生徒は全国平均より 15.7 ポイント高く、ICT機器を積極的に活用していることが分かりました。ICT機器活用についてのその他の質問についても全国平均を上回っているものが多く、ICT機器を活用する力が身に付いていると実感している生徒が多いと考えられます。

生徒質問紙から⑤

質問番号	質問事項											
(31)	1. 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	13.1	38.9	30.3	13.7	2.9						0.0	1.1
京都府（公立）	17.1	45.4	26.0	8.9	2.1						0.0	0.5
全国（公立）	18.9	44.1	25.5	9.0	2.0						0.0	0.5

□1. 発表していた □2. どちらかといえば、発表していた □3. どちらかといえば、発表していなかった □4. 発表していなかった □5. 考えを発表する機会はなかった □その他 □無回答

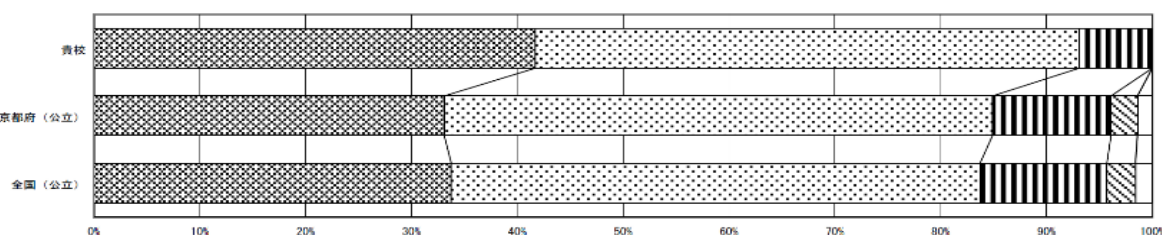


「1. 2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」という質問に対し、「発表していた」と答えた生徒は全国平均より 5.8 ポイント、「どちらかといえば、発表していた」と答えた生徒は全国平均を 5.2 ポイント下回っています。また、「あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると感じますか」という質問に対し、「とてもそう思う」と答えた生徒は全国平均を 6.7 ポイント下回っており、自分の考えを発信することに課題がある生徒が多いことが分かりました。発表内容を充実させるための十分な準備期間と、より効果的な発表手順や話の組立てについての学習機会を増やすことが必要ではないかと考えます。

生徒質問紙から⑥

質問番号	質問事項											
(38)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	その他	無回答
貴校	41.7	51.4	6.9	0.0							0.0	0.0
京都府（公立）	33.1	51.8	11.2	2.5							0.0	1.4
全国（公立）	33.8	50.0	12.0	2.7							0.0	1.6

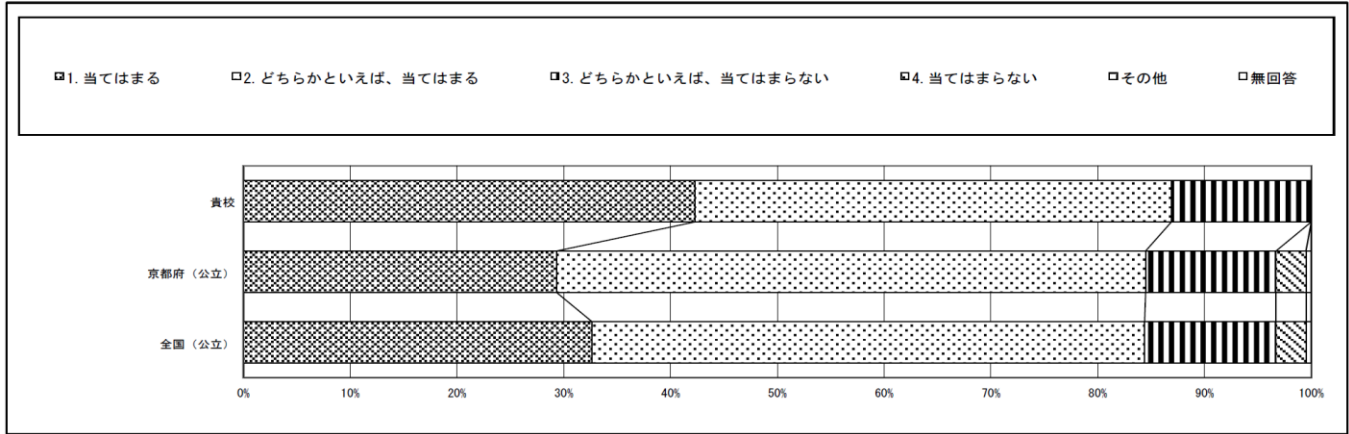
□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない □その他 □無回答



「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか」という質問に対し、「当てはまる」または「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は 93.1%で全国平均を 9.3 ポイント上回っていました。また、「1. 2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均より 7.0 ポイント高く、生徒の学ぶ意欲と教職員の教える情熱が一致していることが見受けられます。

生徒質問紙から⑦

質問番号	質問事項											
(4 1)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか											
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	1 0	その他	無回答
貴校	42.3	44.6	13.1	0.0							0.0	0.0
京都府（公立）	29.3	55.1	12.2	2.8							0.0	0.5
全国（公立）	32.6	51.7	12.3	2.8							0.0	0.5



「あなたの学級では、学級活動をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均を 9.7 ポイント上回っていました。また、「自分にはよいところがあると思いますか」という質問に対し、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均より 3.9 ポイント高く、学級でお互いを認め合い、学校生活を送ることができていると考えられます。「学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか」という質問に対しても、「当てはまる」と答えた生徒は全国平均より 6.6 ポイント高く、生徒が主体となり、よりよい学級を築いていこうとしている様子が見受けられます。